

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第 8 回議事録

平成 21 年 4 月 23 日

1. 日 時：平成 21 年 4 月 22 日(水)14:00～18:00
2. 場 所：応用地質学会事務局
3. 出席者：平野、伊東、小熊、桑原、都築、本間、村上、山本、江口（敬称略）
計 9 名
4. 資 料：
 - ・議事次第
 - ・資料 8-1 委員名簿（4 月 22 日修正版）
 - ・資料 8-2 第 7 回議事録（案）
 - ・資料 8-3 技術書作成工程案（4 月 22 日修正版）
 - ・資料 8-4 進捗表（4 月 22 日修正版）
 - ・資料 8-5 各担当執筆原稿案
 - 資料 8-5-1 第 4 章 岩盤の工学的性質
 - 資料 8-5-2 第 6.6 章 地下空洞の岩盤分類
 - 資料 8-5-3 第 3.3 章 地形要因 岩盤の性状に及ぼす地形の影響
5. 議 事：
 - 5-1 委員交代の確認
岡崎氏の委員退会に伴う村上氏への委員会参加について、全会一致で承認した。
 - 5-2 前回議事録の確認
内容については了承された。
 - 5-3 技術書について
技術書の作業内容および工程について、資料 8-3 および 8-4 に基づき議論を行った。議論の内容結果は以下の通り。
 - ・工程については幹事案のとおり、B ランク原稿を 5 月中に集約することとし、全体工程を約 2 ヶ月延長することで了承する。
 - ・5/29 日夕方を B ランク原稿のメ切とする。5/29 日に幹事が原稿を集約し、各委員に配布する。
 - ・B ランク原稿の作成にあたっては各章全員の責任でチェックを行うこととする。また、現在一人での担当となっている章については、チェック担当の委員を割り振ることとする。
 - ・次回の委員会を 6 月 17 日とし、それまでの間に委員長と幹事で B ランク原稿案を通読

し、原稿に対する修正案をまとめる。

- ・他の委員も、次回委員会までに各担当範囲の原稿を確認し、次回委員会で修正案を提案する。分担については別紙案を参照。
- ・技術書のページ数は 250 程度を目標とする。これから執筆する章についてはできる限りそのことを意識して執筆することとする。また、既に B ランク相当に完成された章においても、省略できるところが確認された場合は修正を行う。
- ・用語の使用法（定義の考え方、表現のニュアンス、国語的用法など）において疑問の発生したものについては、執筆原稿に赤字で記載する。このような用語については、次回以降の委員会で、統一を図るための議論を行う。

5-3 各担当執筆案について

おもに 3 月以降配布された原稿案について議論を行った。議論の内容結果は以下の通り。

①第 4 章 岩盤の工学的性質（説明は伊東委員）

- ・寸法効果の記載については、岩石試験ではある規模以降は必ずしも当てはまらない試験結果となっているため、記載内容を正確にする。
- ・各岩種について、菊池先生の分類表や試験値などを記載する。

②第 6.6 章 地下空洞の岩盤分類（説明は本間委員）

- ・他の 6 章の文章と比較して施工事例が非常に詳しく書かれている。今後 6 章における事例の書き方について調整が必要と思われる。

③第 3.3 章 地形要因 岩盤の性状に及ぼす地形の影響（説明は桑原委員）

- ・岡山切峰面および地形上面と岩盤の硬さの関係については、原理、計算内容、計算結果の考え方がよりわかり易くなる記述とする。

5-4 次回の開催および原稿案の提出について

次回の開催は 6 月 17 日、場所は応用地質学会事務局とする

以 上